

つつじ神

ひたちなか市

江戸時代のころのお話です。

ある日、一人の旅人が大島(現在のひたちなか市東大島)を通りかかりました。その旅人は熊吉といました。その日は、おだやかな天気でしたが、急に空がくもり、大粒の雨が降ってきました。天気はどんどん悪くなり、次第に激しい雷雨へと変わりました。

雨宿りをしようにも熊吉のまわりには民家すらありません。困った熊吉はなんとか雷雨から身を守ろうとしましたが、雷に打たれてしまい、倒れてしまいました。

雨が止み、倒れた旅人を見つけた村人たちは、懸命に介抱したのですが、そのかきもなく「私は仙台から成田詣りに来た熊吉という者です。年は五十六歳になります。」と言うと間もなく息をひきとってしまいました。



近頃は伊勢詣りが流行し、町奉行からも旅人への保護などに気遣うようになるとお達しもありましたので、大島地内の村人たちは、熊吉の塚をつくってねんごろに葬り、その上に一本のつつじを植えました。

そのつつじの木が大きくなったある日、村人の一人が病気になるってしまいました。

あの手この手と試しましたが、病気はいっこうに良くなりません。村人たちが頭を抱えていると、病人の夢の中に熊吉があらわれました。

熊吉は、「私の墓に来て手をあわせれば必ず治してみせます」と言うのです。村人がその通りにすると、あんなに酷かった村人の体調がすっかり良くなりました。

それ以来、熊吉の塚は、つつじ神(無縁様)として祀られるようになり、いつしか、病気に悩む人たちだけでなく、武運長久・受験の合格祈願の神様として信仰されるようになりました。シンボルとなったつつじは枯れてしまいましたが、現在では、すぐ傍らに新しいつつじが植えられ、パワースポットとしてお参りに来る人が絶えないそうです。

〈参考文献〉茨城の伝説(武田清澄、今瀬文也ほか著)



お出かけの際には、周囲の状況等に十分ご配慮いただきますようお願いいたします。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社/〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

この一年間のご愛顧ありがとうございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。